

令和7年度 第6回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和8年1月19日（月）19:00～20:00

【場 所】 広島市役所14階第7会議室

【出席者】 坂口 剛正、大毛 宏喜、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、金子 朋子
大橋 信之、増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、阿部 勝彦

1 新型インフルエンザ等対策行動計画について（資料1）

「広島市新型インフルエンザ等対策行動計画（改定案）」に対する意見聴取について、主な意見の概要及びそれに対する本市の対応は、資料1のとおり。

2 感染症に関する最近の情報

(1) インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の定期接種実施状況について（資料2 P1～74）

インフルエンザについては、令和7年第49週（12月1日～12月7日）にピークを迎えた後、患者報告数は減少し、令和8年第2週（1月5日～1月11日）の報告数は注意報レベルを下回る（定点当たり8.91）など、現在の感染状況は減少傾向を示している（図1）。

一方、基幹定点2か所におけるインフルエンザ迅速診断キット検査では、第2週にA型64件、B型18件が検出されており、B型の検出割合が増加している。

また、本市におけるインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の令和7年11月末までの定期接種の実施状況は、表1及び2のとおり。

新型コロナについては、高齢者における重症化リスクが高く、インフルエンザと異なり夏季にも流行する傾向がみられる（図2）。このような状況を踏まえ、今年度の定期接種期間を令和8年1月31日から令和8年3月31日まで延長し、接種機会を十分に確保することとした。

なお、例年、学校が再開するとインフルエンザや新型コロナなどの急性呼吸器感染症の流行が拡大し、患者数が急激に増加する可能性がある。引き続き、市民に対して効果的な感染予防策を呼びかけ、感染拡大防止に努めていく。

表1 インフルエンザの定期接種実施状況

区分	10月	11月
65歳以上	53,044人	90,446人
60歳～64歳※	29人	124人
合 計	53,073人	90,570人
	143,643人（接種率：46.17%）	

◎ 65歳以上の人口：311,094人

※ 心臓・腎臓・呼吸器・免疫機能に障害者手帳1級程度の障害を持つ者が対象

表2 新型コロナの定期接種実施状況

区分	10月	11月
65歳以上	6,579人	11,883人
60歳～64歳※	12人	32人
合 計	6,591人	11,915人
	18,506人（接種率：5.95%）	

◎ 65歳以上の人口：311,094人

※ 心臓・腎臓・呼吸器・免疫機能に障害者手帳1級程度の障害を持つ者が対象

（委員意見）

- ・ インフルエンザについては、学校が再開し、流行が再拡大する可能性があることから、今後の発生動向に注視する必要がある。

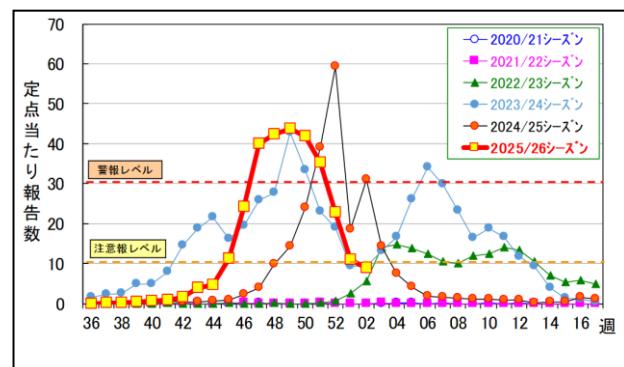


図1 インフルエンザの流行状況

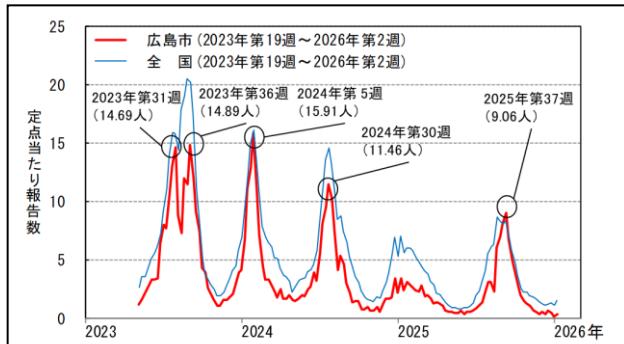


図2 新型コロナウイルス感染症の流行状況

(2) RS ウィルス母子免疫ワクチンの定期接種化について (資料2 P 75 ~ 99)

厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会（予防接種基本方針部会）は、令和7年11月19日の審議会において、RS ウィルス感染症を予防接種法上の A 類疾病に位置付け、令和8年4月1日から母子免疫ワクチンを定期接種とする方針を了承した。

定期接種の対象者及び接種方法は、表3のとおり。

表3 RS ウィルス母子免疫ワクチンの接種対象者及び接種方法

定期接種の対象者	妊娠 28 週から 37 週に至るまでの者
接種方法	区分 組換え RS ウィルスワクチン
	製品名 アブリスボ（ファイザー社）
	接種回数 妊娠ごとに1回（筋注）
	定期接種対象者から除かれる者等 RS ウィルス感染症にかかったことのある者についても定期接種の対象とする。
	その他 ・接種に際しては、接種前に母子健康手帳の提示を求めることとされている。 ・妊娠 39 週に至るまでの間に妊娠終了を予定している場合、その 14 日前までに接種を完了させることが望ましいとされている。 ・現在、薬事承認されている抗体製剤「ベイフォータス」（サノフィ社）については、国審議会において定期接種化に向けた審議が継続中である。

今後、国は、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会を経て、政省令改正等を行った上で、令和8年4月1日から施行する予定としている。

本市としては、定期接種化に向けて必要となる準備等を進めるとともに、対象者及び医療機関への周知を図る等、円滑な制度実施を行っていく。

(委員意見)

- 抗体製剤「ベイフォータス」の定期接種化については、国の審議会の動向を継続的に注視する必要がある。

3 12月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料3、4）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

4 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和7年12月分	令和8年1月分
		報告日 12/1~12/28	報告日 12/30~1/14 現在
2類	結核	15人 (結核9人、潜在性結核6人)	3人 (結核3人、潜在性結核0人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	1人(12/15)	4人(1/10)
4類	A型肝炎	1人(12/24)	1人(1/7)
	レジオネラ症	1人(12/16)	1人(1/8)
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2人(1人(12/3), 1人(12/8))	
	後天性免疫不全症候群	1人(12/18)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	3人(1人(12/5), 1人(12/12), 1人(12/23))	1人(1/8)
	水痘(入院例に限る。)	2人(1人(12/1), 1人(12/11))	
	梅毒	10人(1人(12/6), 1人(12/7), 1人(12/8), 1人(12/11), 1人(12/12), 1人(12/16), 1人(12/19), 1人(12/21), 1人(12/22), 1人(12/23))	2人(1人(1/7), 1人(1/13))
	百日咳	14人(1人(12/1), 2人(12/3), 2人(12/8), 2人(12/10), 1人(12/11), 1人(12/15), 1人(12/16), 1人(12/18), 1人(12/24), 1人(12/25))	1人(1/10)

() は届出日

5 その他《公開》

次回開催予定日 令和8年3月16日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：新型インフルエンザ等対策行動計画について

資料2：最近の感染症情報

資料3：12月の感染症の概要

資料4：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

○素案に対する主な質問・意見についての回答・対応（11月17日感染症対策協議会にて聴取）

主な質問・意見等	回答・対応
福山市、呉市といった保健所設置市も行動計画を作るのか。	全国の市町村において策定することとされています。
すべての市町で同じような内容を作ることができるのか。	県内市町については、県が計画案のチェックを行います。それにより、ある程度、整理されたものが作成されると思われます。
コロナ当時、保健師の負担が大きかった。市において保健師等従事者は十分いるのか。	本市においては、保健師の採用を増やすなどして体制を整えることとしています。
基本的な考え方と基本的な戦略の順番については、「考え方」を踏まえて「戦略」が組まれることを考えると、逆がよいのではないか。	御意見を踏まえ、修正いたします。
新型インフルエンザ等の中に、指定感染症、新感染症が含まれる。これらはいずれも対象となるのか。	呼吸器系の感染症を幅広くカバーする内容としています。
病院はどこも経営が苦しい。補助金なしでコロナのときと同じ対応ができるのか心配している。	財政上の措置については、政府行動計画において予算の確保に係る記載があることから、本市としては、国において予算が措置された場合は、国や県と連携し、医療機関等に速やかに補助金等を交付できるよう努めてまいります。
県による医療措置協定が機能しない場合を想定する必要がある。	感染症に係る医療提供体制については、医療圏が市域をまたぐことから、県内で統一的に行う必要があり、現在、県を含む関係機関等との会議体を設けたところです。このため、今計画への反映は困難ですが、頂いた御意見については、次回以降の計画見直しの際の参考とさせていただきます。
薬がなくなったときの対応を盛り込んでもらいたい。	御意見を踏まえ、修正いたします。

○素案に対する主な質問・意見についての回答・対応（書面にて聴取）

主な質問・意見等	回答・対応
<ul style="list-style-type: none">・発生初期にはサーベイランス強化は必要だが、蔓延期に入ったら全数把握をやめるタイミングについて、早期に見極める必要がある。・市民に対しては、マスク着用や三密回避等の感染予防について呼びかけるなど、経済活動停止は極力避けるような対策をすべきである。・国や県の計画に沿わざるを得ないのでしょうが、市独自の対応を充実させた方が良い。	<p>本市行動計画は、法により政府行動計画や県行動計画に基づくこととされていることから、頂いた御意見について、今計画に反映させることは困難と考えます。</p> <p>については、次回以降の計画見直しの際の参考とさせていただきます。</p>

広島市感染症対策協議会コメント（1月分）

令和8年1月19日

1 患者情報

（1）概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、12月は17,491人であった。そのうち、急性呼吸器感染症（ARI）を除いた患者報告数は6,028人で、前月比1.14とやや増加した。

インフルエンザ、水痘、突発性発しんはやや増加、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、手足口病、急性呼吸器感染症（ARI）はほぼ横ばい、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、伝染性紅斑はやや減少、マイコプラズマ肺炎は減少、流行性角結膜炎は大きく減少した。

（2）特記事項

- インフルエンザは、2025年第49週（12月1日～7日）に定点当たり43.71人のピークとなった以降は減少が続き、第2週（1月5日～11日）に定点当たり8.91人と、注意報レベル（定点当たり10.0人）を下回った（図1）。また、市内2か所の協力医療機関による迅速診断キットの検査結果では、B型インフルエンザウイルスの割合が増加傾向である。引き続き、手洗いの励行、咳エチケットなど感染予防対策を徹底することが重要である。
- 梅毒の2025年の累計報告数は、149件（男性99件、女性50件）（速報値）となった（図2）。過去最多の報告があった2022年（317件）以降は減少傾向だが、2021年までと比べて多い状況が続いている。梅毒は、主に性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあり、妊婦が感染すると流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。感染予防と早期発見・早期治療が重要である。

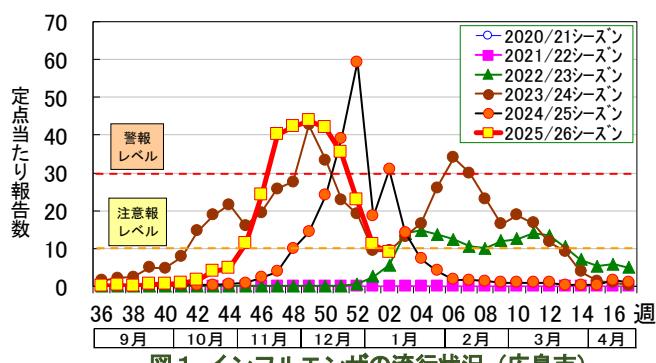


図1 インフルエンザの流行状況（広島市）

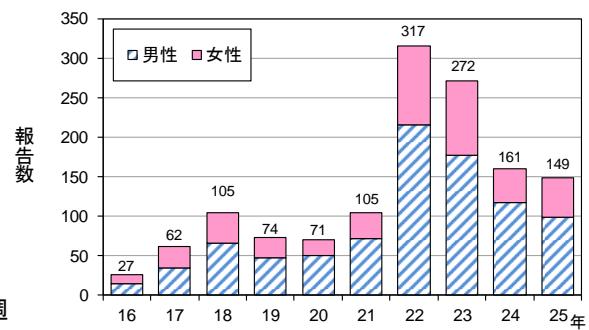


図2 梅毒の年間報告数の推移（広島市）

- 腸管出血性大腸菌感染症の2025年の累計報告数は、直近10年間で最多の31件（速報値）となった。2014年の累計報告数9件以降、増加傾向が続いている。感染予防には、加熱が必要な食品の十分な加熱、野菜・調理器具の洗浄や手洗いの励行などの対策を徹底することが大切である。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の2025年累計報告数は17件（速報値）と、1999年の感染症法施行以降の調査において、最多となった2024年（19件）に次いで多かった。全国でも同様に、最多の2024年（1,893件）に次いで多く、1,382件（速報値）となった。
- 2025年4月7日に急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始され、広島市衛生研究所におけるARI病原体サーベイランスの2025年累計検査検体数は595件となった。うち陽性検体数は399件、陽性率は67.1%であった。項目別の検出数は、ライノウイルス／エンテロウイルス（167件）、新型コロナウイルス（82件）、インフルエンザウイルスAH3（64件）の順に多かった。

（3）12月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核15件（患者：9件、潜在性結核：6件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1件
- 4類感染症：A型肝炎 1件、レジオネラ症 1件
- 5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件、後天性免疫不全症候群 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 3件、水痘（入院例に限る。） 2件、梅毒 10件、百日咳 14件

（4）今後の流行予測

インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎・・・【流行終息傾向】

2 検査情報

12月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
手足口病	コクサッキーウイルス A6型	10月	1人
	コクサッキーウイルス A9型	10月	1人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 54型	7月	1人
	アデノウイルス 54型	8月	3人
	アデノウイルス 54型	9月	4人
	アデノウイルス 37型	10月	3人
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス A9型	9月	1人
	パレコウイルス 3型	9月	1人
その他の呼吸器疾患（上気道炎）	ライノウイルス	10月	1人
その他の消化器疾患（胃腸炎）	アデノウイルス 41型	7月	1人

17人の患者から7種類のウイルス17株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス54型が8株、アデノウイルス37型が3株、コクサッキーウイルスA9型が2株、コクサッキーウイルスA6型、パレコウイルス3型、ライノウイルス及びアデノウイルス41型が各1株であった。

【参考】ARI病原体サーベイランス検査結果（広島市感染症週報より）

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	インフルエンザウイルス A/H3pdm09	インフルエンザウイルス A/H3	(ビクトリア系) B型インフルエンザウイルス	(山形系統) B型インフルエンザウイルス	(SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニユーモウイルス	パラインフルエンザウイルス1型	パラインフルエンザウイルス2型	パラインフルエンザウイルス3型	パラインフルエンザウイルス4型	エンテロウイルス/ ライノウイルス/	アデノウイルス
第49週	16	12		7	1		1								4	1
第50週	18	18		9			5				1	1			6	1
第51週	15	8		4	1						1					3
第52週	18	11		6							2				4	2
第1週	0	0														

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む（検査：広島市衛生研究所）

**5類感染症定点情報
(令和7年12月解析分)**

1. 週報対象(第49週～第52週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	急性呼吸器感染症(ARI)	➡	11,463	327.51		11	突発性発しん	➡	20	0.91	
2	インフルエンザ	➡	5,033	143.79	流➡	12	ヘルパンギーナ		3	0.15	
3	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	➡	75	2.14		13	流行性耳下腺炎		2	0.09	
4	RSウイルス感染症	➡	61	2.77		14	急性出血性結膜炎		-	-	
5	咽頭結膜熱	➡	26	1.18		15	流行性角結膜炎	⬇	28	3.51	
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	282	12.82		16	細菌性髄膜炎		-	-	
7	感染性胃腸炎	➡	343	15.58		17	無菌性髄膜炎		-	-	
8	水痘	➡	27	1.23		18	マイコプラズマ肺炎	➡	51	8.50	流➡
9	手足口病	➡	21	0.95		19	クラミジア肺炎		-	-	
10	伝染性紅斑	➡	28	1.26		20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(12月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	➡	21	2.33
2	性器ヘルペスウイルス感染症		4	0.44
3	尖圭コンジローマ		12	1.33
4	淋菌感染症		10	1.11
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	➡	28	4.67
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね 1:2以上の増減	↑	⬇
前月と比較しておおむね 1:1.5～2の増減	➡	⬅
前月と比較しておおむね 1:1.1～1.5の増減	➡	➡
ほぼ横ばい(発生件数少數のものを含む)	➡	

予測記号

流行始まり	流➡
流行中	流➡
流行終息傾向	流➡
終息	終

全数把握感染症報告数(令和7年12月分)

第49週～第52週(12月1日～12月28日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痢そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	15	120	1,431	14,480
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	4
	16 細菌性赤痢	-	1	6	59
	17 腸管出血性大腸菌感染症	1	31	224	4,319
	18 腸チフス	-	-	1	32
	19 パラチフス	-	-	-	8
	20 E型肝炎	-	3	56	585
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
四類	22 A型肝炎	1	6	7	133
	23 エキノコックス症	-	-	-	26
	24 エムボックス	-	-	9	23
	25 黄熱	-	-	-	-
	26 オウム病	-	-	1	12
	27 オムスク出血熱	-	-	-	-
	28 回帰熱	-	-	-	6
五類	29 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	30 Q熱	-	-	-	-
	31 狂犬病	-	-	-	-
	32 コクシジオイデス症	-	-	1	7
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	1
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	1	3	191
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
六類	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	2
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チケンギニア熱	-	-	1	21
	40 つつが虫病	-	-	131	290
	41 デング熱	-	3	7	164
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
七類	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニパウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	4	6	674
	46 日本脳炎	-	-	1	4
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
八類	50 ブルセラ症	-	-	1	2
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリヌス症	-	-	-	1
	55 マラリア	-	-	2	22
	56 野兎病	-	-	-	-
九類	57 ライム病	-	-	-	18
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	1
	61 レジオネラ症	1	31	161	2,413
	62 レブトスピラ症	-	-	4	63
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
十類	64 アメーバ赤痢	-	2	44	449
	65 ウイルス性肝炎	-	3	31	260
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	10	72	1,197
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	3	37
	68 急性脳炎	-	8	86	630
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	23
	70 クロイソフェルト・ヤコブ病	-	-	21	184
十一類	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	17	121	1,382
	72 後天性免疫不全症候群	1	8	78	866
	73 ジアルジニア症	-	-	2	35
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	5	45	650
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	10	84
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	3	29	282	3,391
	77 水痘(入院例に限る。)	2	6	57	665
十二類	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	10	149	943	13,530
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	18	178
	81 破傷風	-	1	8	94
	82 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 パンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	11	92
	84 百日咳	14	1,034	2,045	89,387
十三類	85 風しん	-	-	-	11
	86 麻しん	-	2	14	265
	87 薬剤耐性アシнетバクター感染症	-	-	-	9